武　一　中

令和６年２月１３日
武蔵野市立第一中学校
学校だよりＲ５－１７号

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

分かりやすいこと

校　長　　中嶋　建一郎

皆さんに協力してもらった授業理解度調査は、集計して、7月分は夏休み明けに、12月分は１月末に先生方に伝えました。調査では、それぞれの先生の授業の分かりやすさの理由を書いてくれた人がいました。同じような内容があったので、いくつか挙げてみます。声が聞こえる、板書が見やすい、ペースが丁度良い、質問に答えてくれる、説明が丁寧、例え・例がうまい、プリント・スライド・タブレットを活用している、意見交換の時間がある、楽しい・面白い、自分たちに近い言葉や話題を取り入れてくれる、雑談がある、などです。逆に分かりにくい理由も書いてもらいましたが、分かりやすい例の逆のこと、声が聞こえにくい、ペースが速いなどです。先生方は、皆さんの書いてくれたことを参考にして、分かりやすい授業を目指してくれると思います。

さて、話を広げて授業以外の場面でも分かりやすく伝えることを考えたいと思います。皆さんが教える側になった時、発表や説明する時などにも、先ほどの授業が分かりやすいと感じたことに気を付ければ良さそうですね。声の大きさ、話すペース、視覚情報の活用などです。逆の立場になるとなかなか難しいものですが、皆さんも分かりやすい発表や説明を目指してほしいと思っています。授業の中や行事の後などの機会を利用して、意識して上手く伝えられるようになりましょう。

私も長く教員をしていましたから、職業柄、様々な場面でわかりやすく説明することを目指してきました。分かりやすく伝える方法の本もいろいろと読みました。その中でも一番自分が納得してためになったのが藤沢晃治著「分かりやすい説明の技術」という本です。約20年前2002年に発行されています。その中に書かれていて、是非皆さんにも知ってほしいことがあるので紹介します。分かりやすい説明をするのにはいくつか気を付けなければならないことがありますが、その中の一つです。説明の内容や量に関することです。

この図を見てください。ビール瓶に水を入れています。右側のように口の細いビール瓶には短時間で大量の水は入りません。左側のようにビール瓶の口の大きさに合わせた水の量であれば、注いだ分だけ瓶に入っていきます。私は、分かりやすく説明しようと考える時には、いつもこの図をイメージしています。話し手は、自分が話したいことを短時間にたくさん話すことがありますが、相手に届かなければ意味がありません。丁度良い量で、相手の理解の速度に合わせることが大切です。話したいことがたくさんあるときに特に注意して下さい。

１３日（火）朝礼より